

令和7年7月9日

「新たな学びの実現に向けた教育課程の在り方に関する研究」 報告書を公表します

国立教育政策研究所では、教育政策上の課題について、広く所内外の研究者の参加を得て、プロジェクトチームを組織して研究活動を行っています。

そのうち、令和6年度に終了した「新たな学びの実現に向けた教育課程の在り方に関する研究」について、報告書（1、2）を取りまとめましたのでお知らせします。

1. プロジェクト研究名

「新たな学びの実現に向けた教育課程の在り方に関する研究」（令和4年度～6年度）

2. 研究目的

本研究は、新たな時代の学びを実現する教育課程の在り方について、学習指導要領における教育課程の基準の示し方及び学校における教育課程編成への支援という視点から、

A: 教科等における深い学びを実現する「内容」の示し方、

B: 現代的な諸課題に応える教科等横断的な学び・探究的な学びの在り方、

C: 学校におけるカリキュラム・マネジメント支援方策、

の三点について、理論的・実証的検討を行い、学習指導要領改訂の審議に資するデータを提供することを目的とする。

本研究では、国内外のカリキュラム研究の動向を踏まえた理論的検討と事例分析（諸外国の改革動向・国内の先進事例の成果分析）を行い、特に B の探究的な学びの在り方を報告書1として、また A、B、C 全体を報告書2としてまとめた。

3. 報告書名

- ・報告書1：STEAM等の教科等の特質を基にした探究の在り方に関する基礎的研究
～教科等の特質を基にした探究的な活動とSSHにおける実践知を中心に～
- ・報告書2：新たな学びの実現に向けた教育課程の在り方

4. 報告書の概要

報告書1 STEAM等の教科等の特質を基にした探究の在り方に関する基礎的研究
～教科等の特質を基にした探究的な活動とSSHにおける実践知を中心に～

【概要】

新教科の理数や各教科等での探究的な学びの充実のため、STEAMの視点を踏まえた次世代の探究の在り方に関する基礎的な知見と、探究的な学びの充実や支援に向けた実践的な知見を提供することを目的に、「教科等の特質を基にした探究的な活動に関する調査研究」と、「探究的な学びの実践に関する調査研究」の二つを中心に調査・研究を行った。

【主な研究成果】

教科等の特質を基にした探究的な活動に関する調査研究について

- ・理科、エンジニアリング（工学）、芸術、数学といったSTEAMを構成する教科・領域を基盤とする探究的な活動について、その活動の意義、探究の過程、実践事例等を整理し

た。

- ・教科等の特質を基にした探究の過程では、「課題や問いの設定」、「モデルの作成」、「モデルの検証」、「行動」を探究的な活動の主要素として整理した。次世代の探究の在り方を検討する際、これら四つの主要素を枠組みとして、それらにどのような要素を含めることが有効かといった視点で議論を進めることが有効と考えられる。

探究的な学びの実践に関する調査研究について

- ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）におけるこれまでの実践を基に、探究的な活動で育成を目指す資質・能力、探究的な学びの充実に向けたカリキュラムデザインや指導、支援について整理した。
- ・探究的な学びの充実に向けたカリキュラムのデザインの例として、学校設定教科・科目の利用、教科・科目の学習との連携、部活動との連携等を実践知としてまとめた。
- ・探究的な学びを充実させるための指導や支援について、研究テーマを基にした指導体制、教員間の協力体制の構築、外部リソースとの連携・協力等に関する内容を実践知としてまとめた。

報告書2 新たな学びの実現に向けた教育課程の在り方

【概要】

今後の教育課程の基準の改訂及び改訂の理念を実現するための学校支援の方策の検討に資する基礎資料として、「2. 研究目的」に記載の三点（A・B・C）について、諸外国・地域や国内における先進的な取組を比較調査した。

Aの「教科等における深い学びを実現する内容の示し方」に関する調査研究では、諸外国における各教科等の内容の検討において、特にカナダ（オンタリオ州とブリティッシュ・コロンビア州）、シンガポール、韓国の教育課程を対象とし、また、教科等における「見方・考え方」の検討において、特に社会・地歴・公民、算数・数学、理科を取り上げた。

Bの「現代的な諸課題に応える横断的・探究的な学びの在り方」に関する調査研究では、諸外国・地域における教科等横断的な学びの検討において、特にオーストラリア、ドイツ、フィンランド、中国、台湾の教育課程を対象とし、加えて、国際教育とSTEAM教育の観点からも検討した。国際教育については、国際協力機構（JICA）と2023年3月～2024年6月にかけて、韓国、カナダ、イギリス（イングランド）、オーストラリアの4か国で共同国際調査プロジェクトを実施した。

Cの「学校におけるカリキュラム・マネジメント支援方策」の調査研究では、諸外国における学校支援の取組の検討において、特にイギリス（イングランド）とニュージーランドの取組を対象とし、また、教育委員会による学校支援の検討において、山口県教育委員会と横浜市教育委員会を取り上げた。

なお、諸外国の教育課程や取組については、日本が今後、A・B・Cのテーマに取り組む方策を検討する上で、参考となる国・地域に限定して取り上げた。

【主な研究成果】

A「教科等における深い学びを実現する内容の示し方」に関する調査研究について

- ・カナダ、シンガポール、韓国では、汎用的な資質・能力目標に基づく教育課程が一層定着してきた中で、教育内容について、教科等横断的な「ビッグアイデア」や各教科等に固有の「主要な概念」の下で構造化（概念基盤型カリキュラム）を進めている。内容の構造化

- への取組は、各国によって異なる。教科等で一律に「ビッグアイデア」を導入した国（韓国）や各教科の特質に応じて一部教科のみに導入している国（シンガポール）がある。
- ・学習指導要領の「見方・考え方」には、この「主要な概念」の考え方が活用されていると確認し、見方・考え方に示された視点と方法を整理。

B「現代的な諸課題に応える横断的・探究的な学びの在り方」に関する調査研究について

- ・教科等横断的な学びや探究的な学びは、オーストラリア、ドイツ、フィンランド、中国、台湾の教育課程に位置付けられているが、テーマや時数に関する指定の仕方は異なる。また、一定の枠組みの下で学校裁量による柔軟な編成を促す国・地域（フィンランド、台湾）がある。
- ・国際教育については、特定の教科・科目を設けるのではなく、教育課程の全体を通して、グローバル社会で求められる資質・能力を育成するといったアプローチがとられていた。
- ・STEM/STEAM 教育の知見を基に、教科等横断的な学びにおけるカリキュラムデザインとして、複数教科型、教科連携型、教科横断・超領域型アプローチにおける教員の役割を例示。

C「学校におけるカリキュラム・マネジメント支援方策」の調査研究について

- ・教育委員会による学校支援の在り方を考える視点の例として、施策横断的・組織横断的な支援、PDCA による支援の質の向上、資源の十分な活用を検討。
- ・イギリス、ニュージーランドでは、学校外の外部専門機関と連携し、人的支援や人材育成・研修を実施。
- ・山口県においては、県と市町の教育委員会が連携し複数の小・中学校を担当する指導主事を配置したり、カリキュラム・マネジメントの手引きや学校運営に係る自己点検シートを開発し、その活用を通じた学校支援の改善・充実と指導主事の能力向上等の取組を実施。
- ・横浜市では、「学校教育事務所」（学校の自主性・自律性や校長のリーダーシップによる学校経営を推進するねらいで 2010 年に開設）が学校支援。

3. ウェブサイトへの掲載

報告書の概要及び報告書本体は、当研究所のウェブサイトに掲載しています。

(https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/seika_digest_r06a.html)



【お問合せ先】

国立教育政策研究所

教育課程研究センター・基礎研究部

総括研究官 松原 憲治 03-6733-6872

総務部研究支援課 研究支援係

研究支援係長 笠原 絵美 03-6733-6813

新たな学びの実現に向けた教育課程の在り方に関する研究 (Curriculum design and development for realization of new ways of learning)

新たな時代に求められる多様な学びの充実のために、令和3年度までのプロジェクト研究の成果を基に、諸外国・地域(以下「諸外国」とする)の教育課程や国内の先進的な取組を参照し、教育課程の在り方を検討した。具体的には、

- A: 教科等における深い学びを実現する「内容」の示し方、
- B: 現代的な諸課題に応える教科等横断的な学び・探究的な学びの在り方、
- C: 学校におけるカリキュラム・マネジメント支援方策、

について、国内外のカリキュラム研究の動向を踏まえた理論的検討と事例分析(諸外国の改革動向・国内の先進事例の成果分析)を行い、今後の検討に資する基礎資料を提供することを目指し、特にBの探究的な学びの在り方を報告書1として、またA、B、C全体を報告書2としてまとめた。なお、報告書2の諸外国の教育課程や取組事例については、日本が今後、A・B・Cのテーマに係る方策を検討する上で、参考となる国・地域を取り上げた。

研究成果

- ・報告書1: STEAM等の教科等の特質を基にした探究の在り方に関する基礎的研究～教科等の特質を基にした探究的な活動とSSHにおける実践知を中心に～
- ・報告書2: 新たな学びの実現に向けた教育課程の在り方

A 深い学びを実現する「内容」の示し方

<調査対象> 諸外国の教育課程: カナダ、シンガポール、韓国
教科等における「見方・考え方」: 社会・地歴・公民、算数・数学、理科

報告書2

- カナダ、シンガポール、韓国では、汎用的な資質・能力目標に基づく教育課程が一層定着してきた中で、教育内容について、**教科等横断的な「ビッグアイデア」**や各教科等に固有の**「主要な概念」**の下で**構造化(概念基盤型カリキュラム)**を進めている。
- 内容の構造化への取組は、各国によって異なる。教科等で一律に「ビッグアイデア」を導入した国(韓国)や**各教科の特質に応じて一部教科のみに導入**している国(シンガポール)がある。
- 学習指導要領の「見方・考え方」には、この**「主要な概念」の考え方が活用されている**と確認し、見方・考え方に示された視点と方法を整理。
- 重要な視点として、「方法的概念」と「内容的概念」の両面から見方・考え方を整理(社会・地歴・公民)、内容との関係を基に、学年や学校段階を通じた見方・考え方の深まり(算数・数学)、教科ならではの見方・考え方として、例えば科学の本質といった、教科の本質への注目(理科)等を例示。

B 教科等横断的な学び・探究的な学びの在り方

<調査対象> 諸外国の教育課程: オーストラリア、ドイツ、フィンランド、中国、台湾
教科等の特質を基にした探究的な活動: STEAM(理、技、工、芸、数)の教科・領域

報告書1
報告書2

- 教科等横断的な学びや探究的な学びは、調査対象国・地域の教育課程に位置付けられているが、テーマや時数に関する指定の仕方は異なる。また、**一定の枠組みの下で学校裁量による柔軟な編成を促す**国・地域(フィンランド、台湾)がある。
- STEM/STEAM教育の知見を基に、教科等横断的な学びにおけるカリキュラムデザインとして、複数教科型、教科連携型、教科横断・超領域型アプローチにおける教員の役割を例示。
- 教科等の特質を基にした探究の過程**における類似性に着目し、「課題や問いの設定」、「モデルの作成」、「モデルの検証」、「行動」の4つの主要素を提示。
- SSHの実践を基に、探究的な活動で育成を目指す資質・能力、**探究的な学びの充実に向けたカリキュラムデザインや指導、支援**について整理。

C 学校におけるカリキュラム・マネジメント支援方策

<調査対象> 諸外国の取組: イギリス、ニュージーランド
教育委員会: 山口県教育委員会、横浜市教育委員会

報告書2

- 教育委員会による学校支援の在り方を考える視点の例: 施策横断的・組織横断的な支援、PDCAによる支援の質の向上、資源の十分な活用
- イギリス、ニュージーランドでは、**学校外の外部専門機関と連携**し、人的支援や人材育成・研修を実施。
- 山口県では、**県と市町の教育委員会が連携**し複数の小・中学校を担当する指導主事を配置したり、カリキュラム・マネジメントの手引きや学校運営に係る自己点検シートを開発し、その活用を通じた学校支援の改善・充実と指導主事の能力向上等の取組を実施。
- 横浜市では、「学校教育事務所」(**学校の自主性・自律性や校長のリーダーシップによる学校経営**を推進するねらいで2010年に開設)が学校支援。